

町長 施政方針



池田町長

平成26年度は津野町が誕生し10年目を迎える。2月1日には合併10周年記念行事を計画している。
日本経済は景気回復に向けて動き始めたが、4月からの消費増税により大きく左右されると思われる。地方の安定した財政運営に必要な地方税は1%増、地方交付税は1%減、臨時財政対策債は9.9%の減となり、平成26年度一般会計予算は61億6千600万円、特別会計予算総額は21億8千859万2千円となる。

主要な施策

「元気な集落づくり」

人口減少や少子高齢化が進むなか、元気な集落づくりに取り組む。

「住んでみたいまちづくり」

防災組織の充実を図る。県の地域防災対策総合補助金を活用し避難所16ヶ所を指定。
昭和56年5月31日以前に建築された新耐震基準に満たない木造住宅は診断説明を行う。

「子育て応援金事業」

誕生祝い金5万円、小学校入学時3万円、中学校入学時3万円を支給する。

「道づくり支援事業」

道づくり支援事業交付金要綱を制定し、伐採、トラックの借り上げ等、経費を補助する。

「健康で安心の福祉のまちづくり」

第四期障害福祉計画を見直し。27年度から計画相談支援が必須となり、計画がなければ福祉サービスの利用が出来なくなり、現在の委託先である「相談支援セ

ンターくすのき」も平成26年度から受託しない。認知症グループホームを2ユニット、18床を整備する計画をしていたが待機者が減少しており見送ることとする。

「活力ある産業づくり」

山元土場（貯木場）を朝見谷に整備し、28年度目標で2万㎡を想定。林業再生の取り組みとして「木質バイオマスエネルギー」の町内施設等での活用の可能性を探り、事業化を目指す。

「里山再生事業」

四国カルストや四万十川源流点等のPR活動や地域農業にも力をそそいでいく。

「心豊かな人づくり」

ALT「外国語指導助手」を増員し英語学習の能力アップに努める。また学力向上対策とし学習支援員の増員を行う。育児対策として保健師、栄養士等の専門家との連携から総合的な指導体制の確立に努める。

「諸般の報告」

葉山建設協会との災害時における応急対策に関する協定書調印。超高速通信網整備事業はNTT西日本株

が実施設計を行い、27年2月管内全域サービス開始予定。合併検証アンケートの結果は良くなった12.1%、悪くなった7.1%、分らない43.1%である。国民健康保険税

の引き上げは、津野町国民健康保険運営協議会の協議の結果、改定やむなしで26年4月1日から46%引上げる。基金より600万円繰入をする。

傍聴記

「平成26年度第2回の町議会定例会がおこなわれました。多くの町民の皆さんの傍聴をお願いします」
町の防災無線に促され初めて参加してみました。9時30分からの開議でしたが議場の入口に各議員さんの質問主旨とそれに付随する資料が置かれておりました。各地の公園の現状写真を準備するなど細かい配慮があり、非常に分かりやすい資料となっておりです。国道沿いの公園に設置されているトイレなどは津野町のイメージと直接つながり観光施策を考える上でも大事なポイントだと思えます。「中山

姫野々 小野定利

問部と都市部での教育格差があるのではないかと、地域に即した子供たちへの学習保障を行うため『公費支援型学習塾』等を検討してはどうか」という提案もあり地域格差や教育の公平性を担保するためには大切なことだと思えます。
林業振興については残材の集積による端（は）材の利用は、例えば熱エネルギー源への転換、またバイオエネルギー等、地域の総意の中で林業関連の裾野の広がりが期待できれば雇用拡大さらには若者定住にもつながる。

3月末で任期終了となる